

記念号発刊に寄せて

学長 松 浦 道 夫

経済学部開設50周年記念号として『経済経営論集』発刊されることをお慶び申し上げます。

昨年秋、学院創立125周年・大学開学50周年式典が成功裏に終わりました。これによって桃山学院大学のカラーが鮮明になり、大変良かったと思っています。本学院・大学の周年事業もまずは順調に完了し、次の発展に向けて新たなスタートを切ることになりました。

振り返れば、幾多の苦難、試練に耐え、よく今日を迎えられたと感謝の気持ちです。開学当初の無い無い尽くし、あるのは夢と勢いと学生の事件ぐらゐのものでした。教職員の苦労も並大抵ではなかったことでしょう。1970年代の大学紛争、その後の人権運動で大学は分裂と疲弊のどん底状態でした。ようやく1980年代後半に開学25周年を迎えて、国際交流が始まり、キリスト教センターが設置されました。1989年に文学部を設置したのが転換期となり、新しい発展期を迎えました。1990年代にはチャペル竣工、大学院設置と動きが見え出し、2000年に法学部が設置されて現在の形が出来上がりました。2000年以後、スポーツ強化の成果、国際交流の進展、その後の協定校の拡大となり、皆さんによく知られるところとなりました。

ただ、忘れてならないのは、本学院、大学の周年事業では表に出ませんでした。1970年代後半から短期大学の設置、1992年には廃止となった大きな傷跡があります。周年事業は祝賀行事でもありますから、余分なことは必要ないかも知れませんが、短期大学廃止問題を学院、大学の失敗体験として教訓にすべきでしょう。

50周年記念は、新しいスタートの年でもあります。経済学部は桃山学院大学出発の学部ですから、その自負を取り戻し、社会に求められる学生のための学部として、再出発しなければなりません。経営学部とともに論集を刊行しているように、教育も研究も、そして社会との連携も現実的な協力が必要だと思えます。本学の総合大学としてのイメージを社会に強力にアピールし、また勢いのある大学として知られるように努力してほしいものです。

おわりに、経済学部が本学のリーダー役として、小異を捨てて大同に就き、本学のみならず社会に貢献されることを祈っています。